

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

6年生が行った全国学力・学習状況調査の結果について、本校の傾向をお知らせいたします。

### 【国語】

全体的には、千葉県平均、全国平均とほぼ同等の正答率でした。

大きな課題が見られたのは「書くこと」の領域でした。本校の正答率は全国の正答率の半分程度で、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られました。また、記述式の問題にも課題が見られました。記述式問題の無回答率が、選択式や短答式のものに比べて高い傾向にありました。

今後は、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表す力や文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力をつけさせたいと考えます。

### 【算数】

全ての領域で全国と千葉県の平均正答率を上回っていました。

特によくできていたのは、「データの活用」で、範囲を示す語の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができていました。

課題が見られたのは図形の領域で、図形の意味や性質は理解しているものの、高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断し、その理由を記述することが難しかったようです。また、( )を用いた式や、加法と乗法の混合式を場面と関連付けて読み取ることによって課題が見られました。

今後は、知識を深め、自分の考えを式や言葉で記述できるようにしたいと考えます。

### 【質問紙調査】

「算数への関心等」と「自己有用感」スコアが、平均を上回っていました。

算数への関心の高さに比べ、国語への関心に課題が見られました。「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた児童の割合が、全国平均に比べ低い傾向が見られました。国語が「将来の役に立つ」と回答した児童も少なかったようです。一方、算数に関する質問には肯定的回答が非常に多く、意欲と教科の調査結果との関係が見られました。英語の学習に対する肯定的回答も多くありました。